

平成20・21年度 熊本県教育委員会指定

「環境教育研究推進校」

# 研究紀要

【研究主題】

ふるさとに誇りをもち、心豊かで共に支え合う児童の育成

—①・②・③プロジェクトで進める環境教育を通して—



平成21年11月25日(水)

山鹿市立三玉小学校

## はじめに

月へ向かうアポロ宇宙船から送られてきた漆黒の宇宙に青く輝いて浮かぶ地球の映像は、世界中の人々を感動させ、「宇宙船地球号」として、地球に生きる全ての生き物がかけがえのない存在であることを私たちに認識させました。あれから約50年、生活の豊かさと比例するように、世界各地で毎日のように地球温暖化による危機や災害、ゴミや産業廃棄物による土地や海洋の汚染、森林破壊や様々な生物の絶滅問題などの深刻な環境問題が取り上げられない日はありません。

このような地球の危機を改善すべく、社会経済の構造を環境に配慮した持続可能なものへと変革していく努力や自然遺産の保全、多様な生き物の種を保護しようという認識も国際的に高まっています。

このような中、今回改訂された学校教育法第21条において示された普通教育の目標二、三に示されている内容は、単なる環境教育としてではなく、日本国民として的人格形成の基盤となるものであり、郷土の伝統や文化、自然は次世代へ引き継ぐ財産であることを児童生徒に実践的態度として育成していくことが求められているのは皆様ご承知のとおりです。

本校は、平成20年度から2年間にわたり、熊本県教育委員会の指定を受けて「ふるさとに誇りをもち、心豊かで共に支え合う児童の育成～**み**・**た**・**ま**プロジェクトで進める環境教育を通して～」を研究テーマに、教育目標の具現化に取り組んできました。

児童には、環境学習をする中で、地域の方々との出会いや体験学習で学んだ事実から自分たちが住むふるさとのよさや素晴らしさを発見し、ふるさとに対する誇り、互いに支え合う態度や感謝の心を表現できるようになってほしいと願っております。また、各教科の学習で身に付けた知識や技能を活用し、様々な自己選択の場面でよりよい行動ができるような思考力・判断力・表現力を身につけられるよう、全職員で、共通理解と共通実践を合い言葉に、講師招聘研究や授業研究会、地域の方々との合同活動などの実践に取り組んできました。

まだまだ取組も緒についたばかりで、成果以上に残された課題があるのも実状です。どうか今後の本校教育のよりよい充実のために、ご参会の先生方の忌憚のないご指導とご助言を賜りたいと思います。

最後になりましたが、本校研究推進にあたり、多大のご支援とご指導を賜りました熊本県教育委員会、鹿本教育事務所、山鹿市教育委員会、ご助言をいただきました講師の皆様には深甚なる感謝とお礼を申し上げます。

平成21年11月25日

山鹿市立三玉小学校 校長 北原 光弘

# 目次

はじめに

I	研究の概要	1
1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究主題のとらえ方	3
4	「 <b>み</b> ・ <b>た</b> ・ <b>ま</b> プロジェクト」について	4
5	研究の仮説	5
6	研究の推進体制	5
7	研究の内容	6
8	研究の構想	7
II	研究の実際	
1	環境学習の視点を明確にした系統的・横断的な実践	8
	(1) 環境学習プログラムの構築	
	(2) 「環境学習の視点」を明確にした授業づくり	
	(3) 「みたま学習」で進める問題解決学習	
2	授業の実際	10
	(1) 生活科・総合的な学習の時間を軸とした環境学習の取組	
	(2) 豊かな心の醸成を図る取組	
	(3) 他教科で環境への認識をはぐくむ取組	
3	校内の日常活動における環境にかかわる活動の充実	14
	(1) 継続的な環境活動	
	(2) 自主的活動の充実	
4	学校と家庭・地域が連携を図った環境教育の推進	17
	(1) 家庭・地域が連携した取組	
	(2) 啓発活動の取組	
III	研究のまとめ	19
1	実態調査から	19
2	研究の成果	20
3	今後の課題	20

おわりに

# I 研究の概要

## 1 研究主題

### ふるさとに誇りをもち、心豊かで共に支え合う児童の育成

#### — ①・②・③プロジェクトで進める環境教育を通して —

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日の課題から

私たちが現在享受している豊かな自然の恵みは、私たちの祖先から受け継いだものであり、さらに将来の世代に引き継いでいかなければならないものである。しかしながら、近年問題となっている地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨など地球規模の環境問題は、その多くが地域で暮らす私たち一人ひとりの営みによって引き起こされていると唱える者も少なくない。一人一人が、環境への負荷の少ない生活に努め、環境や環境問題を総合的にとらえて解決への方策をとり、持続可能な社会の構築を目指すことが求められている。

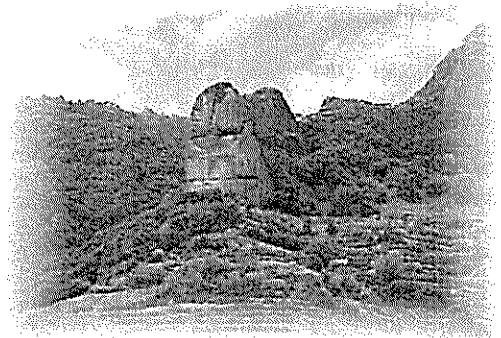
学校においては、平成18年に教育基本法が、また平成19年に学校教育法も改正された。「生きる力」をはぐくむというこれまでの学習指導要領の理念を実現するために、その具体的な手立てを確立する観点から学習指導要領が改訂され、その一部が先行実施されている。改正教育基本法の中で、教育の目標として、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」が新たに規定され、改正学校教育法でも、義務教育の目標として同様の規定が新たに加えられた。平成20年に出された中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」においても、社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項として環境教育の充実を掲げ、学校における一層の推進を求めている。

本県においては、平成4年に「熊本県環境教育基本指針」を策定する等、早くから快適な環境を守り育て次世代に引き継いでいくことができる人づくりを目指した取組が行われてきている。また「熊本県環境教育ガイドライン」を示し、学校教育における環境教育について「生涯教育としての環境教育の基礎を形成する場」として位置づけ、それぞれの地域の特質に応じた研究及び実践が積み重ねられてきている。

### (2) 三玉校区の実態から

本校は、山鹿市の中央部に位置し、美しい自然景観を今にとどめている。特に日の岡山に突き出した不動岩は有名であり、「不動と権現」の綱引きの逸話は熊本の民話にも記されている。また、熊本県の名水百選にも選ばれた一ツ目水源を有し、ホタルの舞う里としても知られている。水源には、広く県内外からも足を運ばれる方が多く、訪れた人々の喉を潤している。

歴史的遺産も多く、江戸時代の代官であった遠山弥治兵衛の発案によってつくられた湯ノ口



【日の岡山にそびえる不動岩】

溜池は県内最大の灌漑用貯水池であり、現在も地域の田畑に水を供給し続けている。

その他にも、国学者本居宣長と親交のあった帆足長秋親子の墓地や地域にまつわる様々な由来を残す寺社も点在している。

地域の自然や歴史遺産については校歌にも取り上げられ、その美しさや厳しさ、優しさを本校児童に伝えている。

### (3) 本校教育目標から

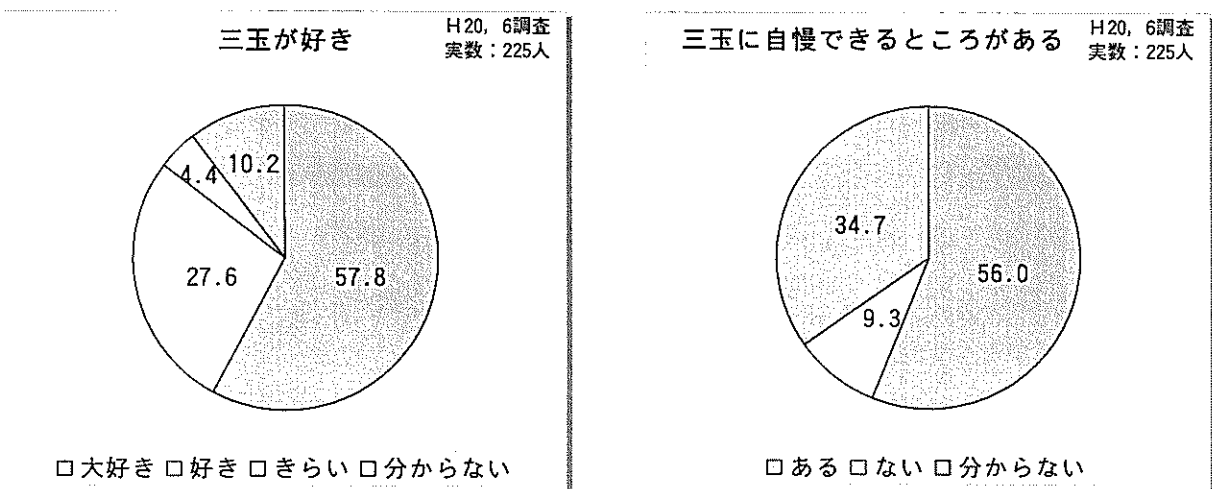
山鹿市の教育ビジョンに示された教育目標「限りない夢を抱き、心豊かにたくましく生きる人材の育成」を受け、児童の実態や保護者の願いを踏まえながら本校の教育目標は、「心豊かでたくましく、自ら学ぶ三玉の子どもを育成する。」と掲げている。また、教育目標達成に向け、学校・児童・教師が以下の姿を目指し、努力目標及び具体的実践事項を設定しながら日々の教育実践に当たっている。

<p><b>めざす学校像</b></p> <p>豊かな心を育む美しい学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつ（人間関係）</li> <li>○ありがとう（感謝）</li> <li>○あとしまつ（思いやり）</li> </ul>	<p><b>めざす児童像</b></p> <p>みたま学習で心身を鍛える子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら学び自ら考える子ども</li> <li>○たくましく、ねばり強い子ども</li> <li>○まともを大切にする子ども</li> </ul>	<p><b>めざす教師像</b></p> <p>人間味に溢れ、学び続ける教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業を大切にする教師</li> <li>○地域を大切にする教師</li> <li>○時間を大切にする教師</li> </ul>
--	---	---

### (4) 児童の実態から

本校には、218名の児童が在籍している。全体的に明るく、活発な児童が多く、外遊びに汗を流す光景がよく見られる。課題としては、新しいことや楽しそうなことに対する関心は高いものの、集中力が持続しない児童が多い。そのために基本的な学習習慣や生活習慣が定着しにくい傾向があり、本校の大きな課題ととらえ、全体指導や個別指導を続けてきた。「確かな学力の定着」という点に関しては、思考力、判断力や表現力に課題が見られ、「みたま学習」を念頭に入れた教材開発や学習過程の確立に力を入れてきた。

昨年度実施した環境教育にかかわるアンケート調査（H20、6月実施）では、8割以上の児童が「三玉を好き」と回答した。しかし、「三玉に自慢できるところがある」という項目では、「ない」「分からない」と答えた児童が4割以上見られた。また、「ある」と回答した児童でも、三玉の自然について触れた理由は、少数であった。



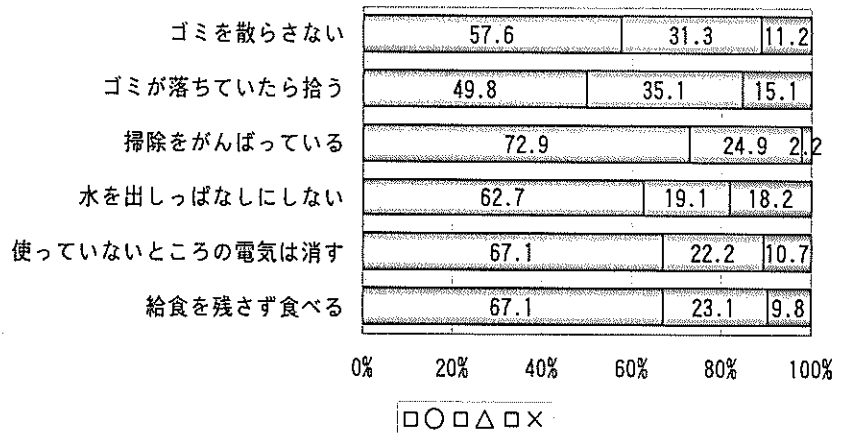
これらの結果から、身近に素晴らしい自然環境がありながらも、それらに対する関心は、あまり高くないことがうかがえた。

また、「環境にかかわる実践状況調査」の結果から、掃除や給食のように時間や場が決まっている項目に対しては数値が高いものの、より自主性が要求される項目になるほど実践できていない傾向が見られる。

これらの意識調査及び実践状況調査の結果から、身近な生活環境や自然環境に対して関心を高める体験活動や学習を、系統的・計画的に実施し、より主体的に行動できる児童を育てていかなければならないことが見えてきた。

環境にかかわる実践状況調査（H20,6月実施）

実数：225人



### 3 研究主題のとらえ方

#### 「ふるさとに誇りをもつ」とは

「自分の生まれ育ったふるさが好き」と、将来にわたって言える子どもたちの姿を意味している。ふるさとを誇りに思うためには、地域を対象に「知る」「触れる」「体験する」「感じる」といったプロセスを積み重ねていくことで、興味・関心が高まってくるものと考え。



#### 「心豊かに」とは



身の回りの自然の変化や様々な出来事などに対して「気づき」「考え」「表現する」といった感性をもつ子どもたちの姿を意味している。その「気づき」を元に、その要因や背景、解決方法等を考え、言葉や身体を使い表現するというサイクルを繰り返していくことで、自らの言動を振り返る視点が身につけてくると考える。

#### 「共に支え合う」とは

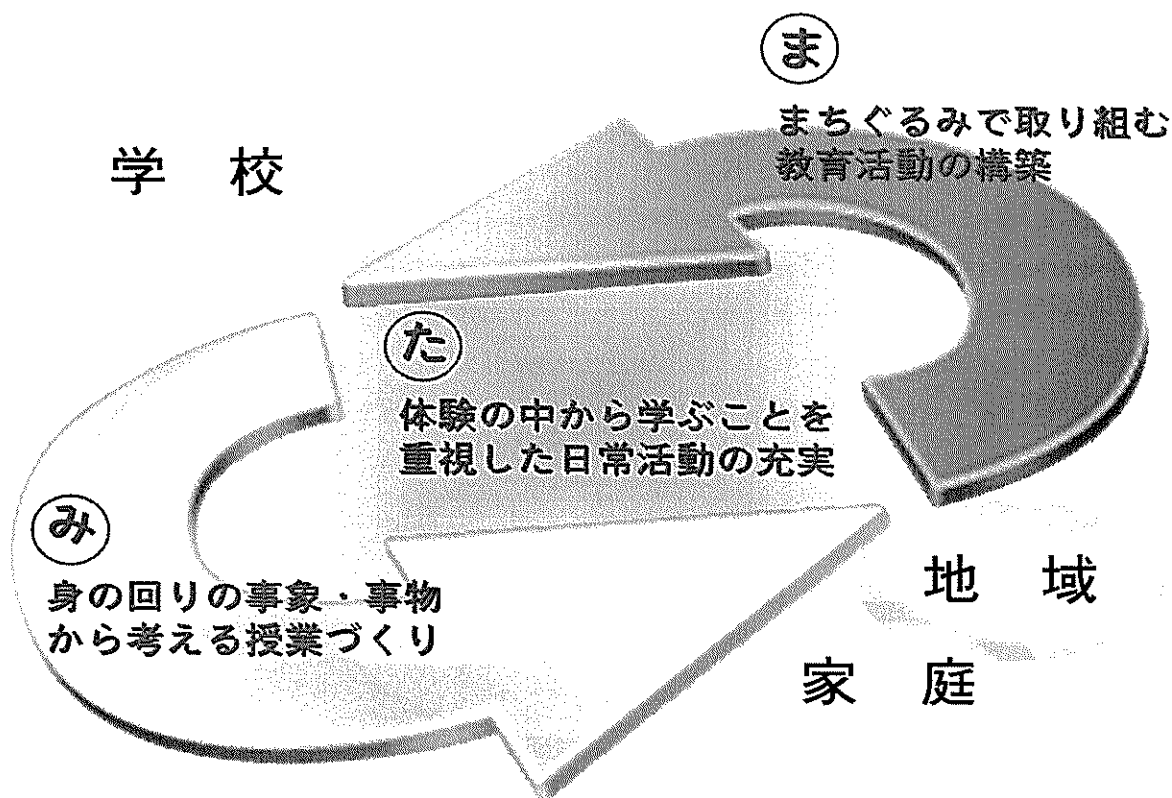
様々な環境（動植物・人・もの）と共生しながら生きる子どもたちの姿を意味している。学校、地域、あるいは地球で暮らす一員として、今自らのあるべき姿や行動を考え、主体的に行動する実践力を培うことが必要である。そのことが、自尊感情や自己有用感を高め、様々な環境に対応しながら「生きる力」へとつながるものと考え。



#### 4 「み・た・まプロジェクト」について

環境教育においては、これまで数多くの優れた先行研究が行われてきた。それぞれの研究が、その地域の特性や児童の実態を踏まえながら、取組を工夫されていた。数多くの実践を通して、環境教育を通してどのような学校の姿や教育活動の在り方を目指し、どのような児童を育てていくかという明確なビジョンをもって進めることが重要であることを学んだ。

本校では、「地域の子どもは地域で育てる」というコンセプトを重視している。環境教育を通して、地域の「人・もの・取組」から物事に対する見方・考え方を学び、地域とより密接な活動の中から確かな行動力をはぐくむことを目標とした。この目標に向けて、「授業づくり」「日常活動の充実」「家庭・地域との連携」という3つの視点から本校の教育活動を見直し、具体的実践を検討していくこととした。これを本校では「み・た・まプロジェクト」と称している。「み・た・まプロジェクト」の内容やイメージについては、以下の通りである。



環境教育には、学校全体で取り組むことが不可欠である。学校における環境教育の在り方については、平成8年の中央教育審議会第1次答申で方針が示されている。その方針と本校の掲げる「み・た・まプロジェクト」との関連を以下に示す。

環境教育の在り方	環境について学ぶ	環境から学ぶ	環境のために学ぶ
小学校の環境教育のねらい	環境に対する豊かな感受性の育成	環境に関する見方や考え方の育成	環境に働きかける実践力の育成
① み・② た・③ ま プロジェクト	身の回りの事象・事象から考える授業づくり	体験の中から学ぶことを重視した日常活動の充実	まちぐるみで取り組む教育活動の構築

## 5 研究の仮説

本校では、研究主題で掲げた児童の姿に迫るために、以下の仮説を設定し、具体的な実践を計画・実施しながら検証していくこととする。

### 【仮説1】環境学習の視点を明確にした系統的・横断的な実践研究

生活科・総合的な学習の時間を基本軸に、道徳の時間や他教科等との関連を図りながら体験的な学習や問題解決的な学習における指導法の工夫・改善を図ることで、発達段階に応じた実践的態度や資質・能力が身に付くであろう。

### 【仮説2】校内の日常活動における環境にかかわる活動の充実

より良い環境を守り、育てる特別活動等でのエコ活動を進めることにより、望ましい環境を意識し、自ら進んで行動化・実践化する態度が身に付くであろう。

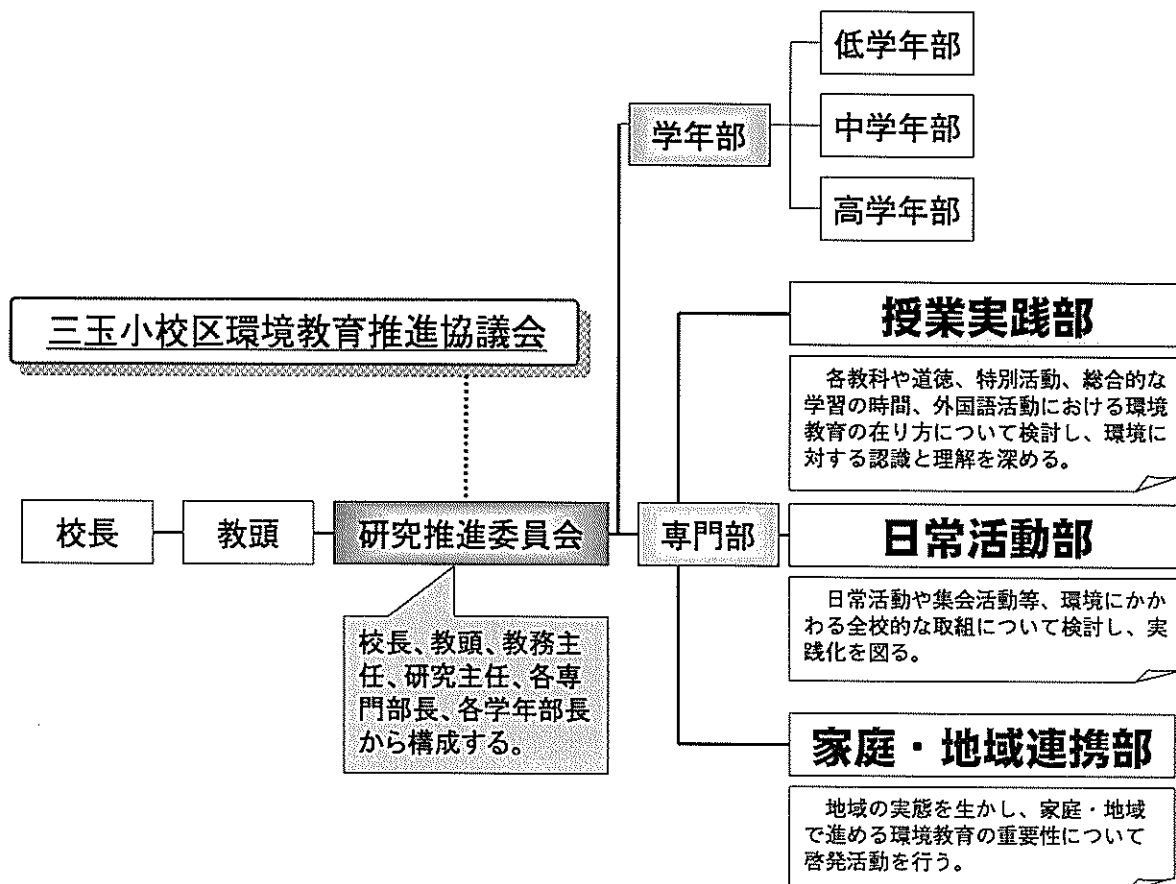
### 【仮説3】学校と家庭・地域が連携を図った活動による環境教育の推進

学校と家庭・地域が連携して身近な環境のためにできる取組を計画・実践すれば、ふるさを見つめ、人と環境のかかわりについて理解し、望ましい環境づくりについての具体的な行動力と実践力が身に付くであろう。

## 6 研究の推進体制

### (1) 研究の組織

研究の仮説に対して具体的な実践事項を検討し、実践していくために、校長を中心とした以下のような組織を作り、成果と課題を検証していくことにした。





## (2) 三玉小校区環境教育推進協議会の設立

校区をあげて環境教育を推進していくにあたり、地域との情報交換の場や協力体制をつくる必要がある。学校と地域が手を取り合って目指す児童の育成に当たっていくことを確認し、「三玉小校区環境教育推進協議会」を設立した。

設立するに当たり、地域の様々な機関・団体等の人材から幅広く組織を構成した。区を単位として環境にかかわる取組が行われているところもあり、それらの実践に学びながら、地域の実態を生かした環境教育の進め方や家庭・地域との連携の方策、地域人材による体験活動への協力体制等について検討していくことにした。



【三玉小校区環境教育推進協議会での話し合い】

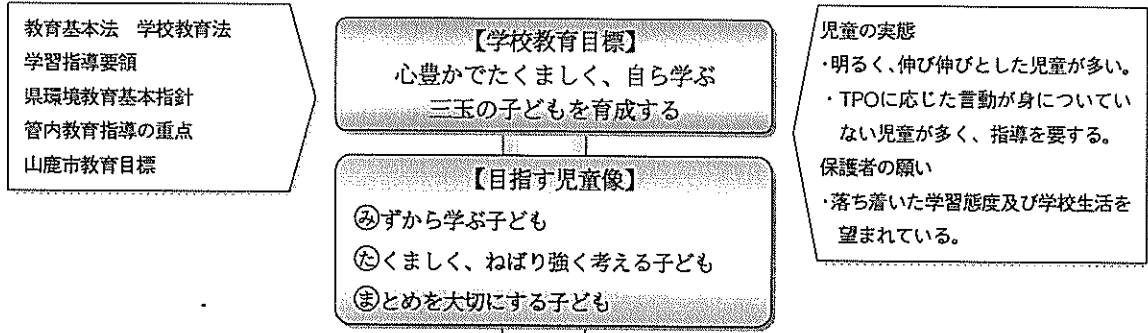
### 【構成メンバー】

公民館館長（会長） 三玉小学校長（副会長） P T A 会長（副会長）  
 各区長（13名） 老人会会長 婦人会会長 P T A 副会長  
 三玉小学校教頭（事務局） 環境教育コーディネーター（研究主任）  
 家庭・地域連携部長 環境教育アドバイザー（富田邦弘先生）

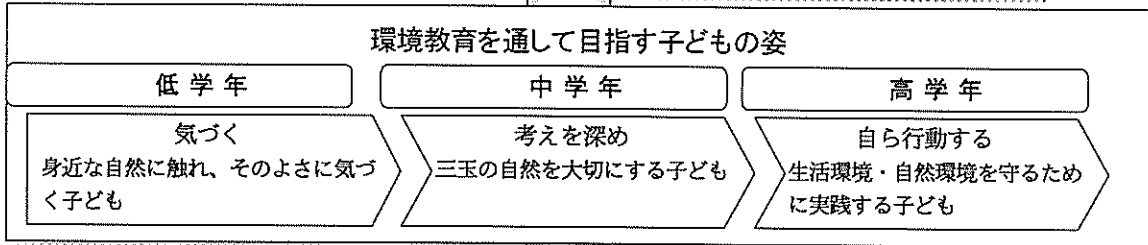
## 7 研究の内容

専門部	研究内容	具体的実践事項
授業実践部	環境学習の基盤作り	環境学習プログラムの作成
		基本的な授業態度の育成
	「環境の視点」を考えた環境学習の充実	「環境学習の視点」を考慮した授業づくり
		豊かな心の育成 学習過程や授業形態の検討
日常活動部	継続的な環境活動	三玉小学校版環境 I S O の徹底
		「わたしのエコ宣言」と自己点検
		計画的な栽培・飼育活動の実施
	自主的活動の充実	委員会活動による環境活動の実施
		発達段階に応じたボランティア活動の実施
		エコ集会・エコ活動の計画・実施
家庭・地域連携部	調査活動の実施	実態調査の実施と分析
	家庭・地域と連携した取組	家庭版環境 I S O への取組
		環境レポーター活動の実施
		地域活動の計画と呼びかけ
	啓発活動の取組	「E C O 通信」の発行
		掲示活動の充実

# 8 研究の構想



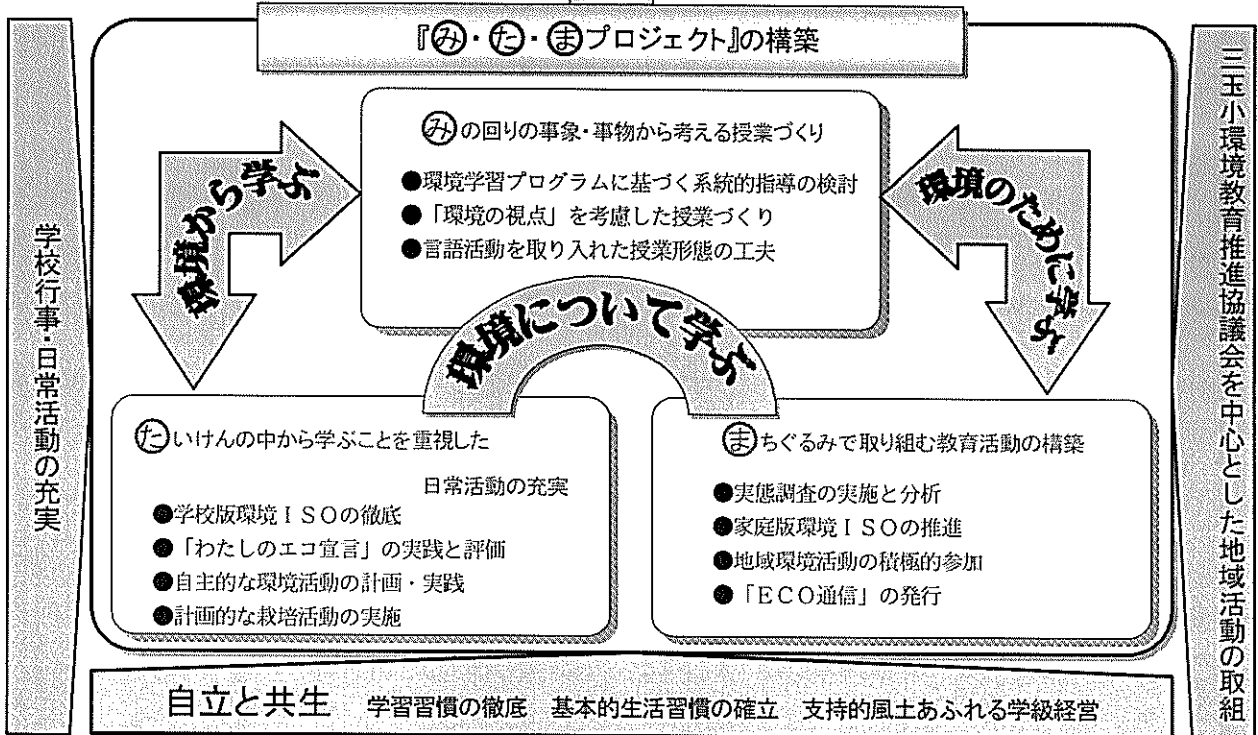
**【研究主題】**  
ふるさとに誇りをもち、心豊かで共に支え合う児童の育成  
— ①・②・③プロジェクトで進める環境教育を通して —



**【仮説1】 <環境学習の視点を明確にした系統的・横断的な実践研究>**  
生活科・総合的な学習の時間を基本軸に、道徳の時間や他教科等との関連を図りながら体験的な学習や問題解決的な学習における指導法の工夫・改善を図ることで、発達段階に応じた実践的態度や資質・能力が身に付くであろう。

**【仮説2】 <校内の日常活動内における環境にかかわる活動の充実>**  
より良い環境を守り、育てる特別活動等でのエコ活動を進めることにより、望ましい環境を意識し、自ら進んで行動化・実践化する態度が身に付くであろう。

**【仮説3】 <学校と家庭・地域が連携を図った活動による環境教育の推進>**  
学校と家庭・地域が連携して身近な環境のためにできる取組を計画・実践すれば、ふるさとを見つめ、人と環境のかかわりについて理解し、望ましい環境づくりについての具体的行動力と実践力が身に付くであろう。



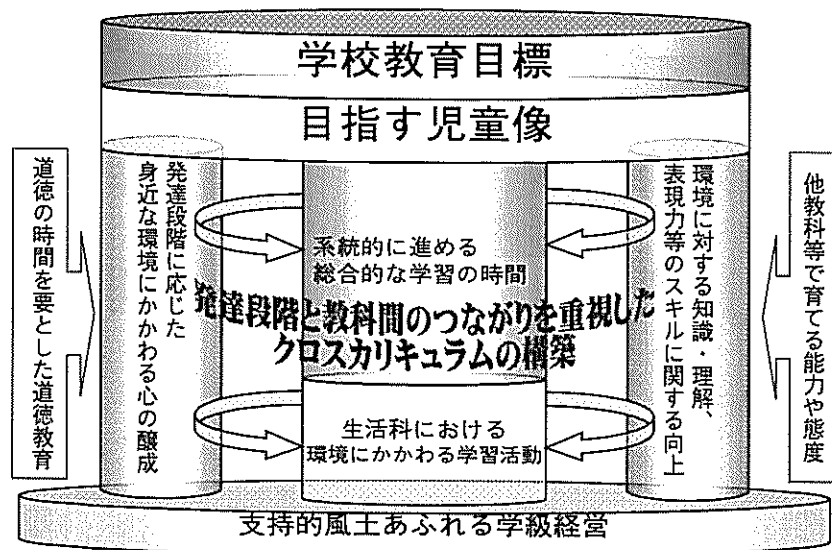
## II 研究の実際

### 1 環境学習の視点を明確にした系統的・横断的な実践

#### (1) 環境学習プログラムの構築

本校の環境教育における学習の部分（以下、「環境学習」と称す）では、次のように進めていくことにした。

低学年においては生活科を、中・高学年においては総合的な学習の時間を基本軸としながら、各学年で環境学習のテーマを設定する。また、道徳や他教科等の学習内容と関連づけたクロスカリキュラムを作成し、体験活動と結び付けた環境学習づくりを行う。



カリキュラム作成にあたっては、学期ごとのスパンで計画を立てて実践し、児童の意識の流れや活動に対する評価を行い、計画の修正を行っている。各学年の環境学習テーマは、以下の通りである。

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生
テ ー マ	【生活】 季節	【生活】 動植物	【総合】 自然	【総合】 水	【総合】 米	【総合】 ふるさと
一 学 期	ひろがれ あそびのわ	見つけよう！ 生き物たんけん	発見しよう！ 自然の中の宝 物	調べよう！ ホテルと住み よい環境	見直そう！ 自分の食生活	学ぼう！ 三玉の先人の すばらしさ
二 学 期	むし・はな・ このはぼくた ちのともだち	育てよう！ 大切ないのち	調べよう！ 自然のふしぎ	よくしよう！ 三玉の水環境	考えよう！ 食生活と環境	調べよう！ 人と環境
三 学 期	わくわく むかしあそび	伝えよう！ 感謝の気持ち	教えよう！ 三玉の自然の よいところ	守ろう！ 三玉の水の美 しさ	見つめよう！ これからの食 生活	発信しよう！ 未来へのメッ セージ

## (2)「環境学習の視点」を明確にした授業づくり

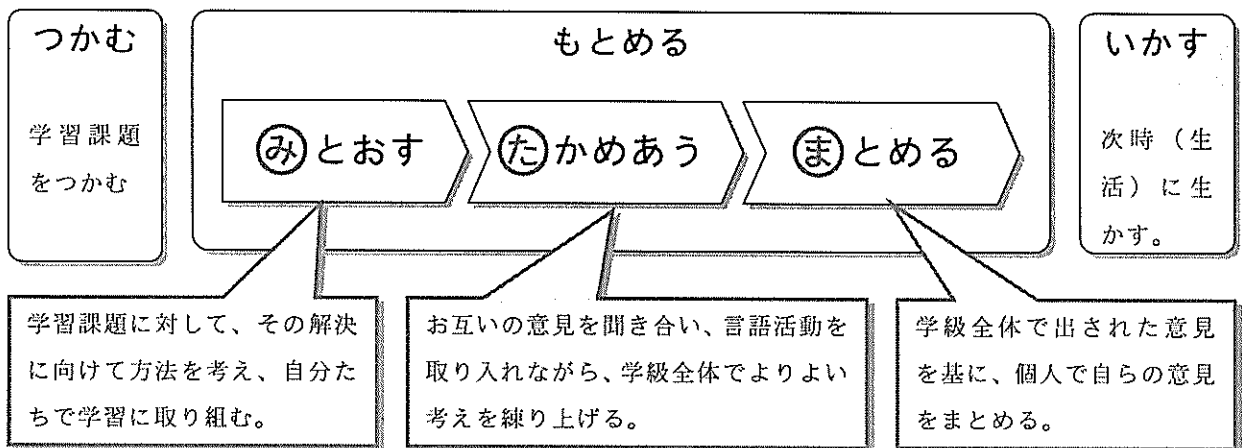
日々の授業を通して、「環境学習の視点」をより明確にした学習を計画していくことで身近な環境に対する意識付けを行ってきた。本校の設定した「環境学習の視点」は、以下の7項目である。

環境学習の視点	ね ら い
資源の再利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活で利用しているものは 限りがあることを知り、節約する態度を養う。</li> <li>・リサイクルや再利用を進めていくことは、資源の保護になることを理解し、実践・工夫しようとする態度を養う。</li> </ul>
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・家庭、地域などの生活の基盤となる環境についての問題点を理解する。</li> </ul>
自然保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの自然に触れ、自然に親しむ。</li> <li>・身近な自然を知り、自然を大切にできる心情を養う。</li> </ul>
豊かな感受性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境にあった生活の仕方を工夫していく態度を養う。</li> <li>・思ったことや感じたことを表現できる力を伸ばす。</li> </ul>
生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命あるものすべてを大切にできる心情を養う。</li> </ul>
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの環境を整え、よりよい環境にしようとする態度を育てる。</li> </ul>
基礎的・基本的な能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球規模の環境問題・公害問題について理解する。</li> <li>・図表やグラフなどを読み取ったり、まとめたりする力を伸ばす。</li> </ul>

## (3)「みたま学習」で進める問題解決的な学習

本校の目指す児童像に、『みたま学習で心身を鍛える子ども』という内容がある。

熊本県学力調査等において、本校児童の思考力・判断力・表現力には課題が見られる。児童の実態から、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を第一義としながらも、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むためのプロセスとして、児童及び教師が「みたま学習」を意識した授業づくりを進めている。「みたま学習」とは、1 単位時間の展開部分の流れを意味し、具体的内容を以下に示す。



## 2 授業の実際

### (1) 生活科・総合的な学習の時間を軸とした環境学習の取組

#### 第1学年 生活科 「ぐんぐん のびろ」





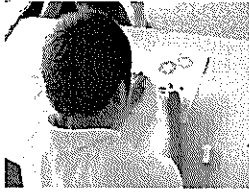

##### 【環境学習の視点】

###### ㊦豊かな感受性

咲いた花に喜びを感じ、草花を使って、工夫して遊んだり工作したりすることで自然の素晴らしさや不思議さ、おもしろさを味わわせる。

###### ㊦生命尊重

植物が生命をもっていることや成長していることに気づくことができ、これからも大切に世話をしていきたいという気持ちをもたせる。

学習過程	授業の流れと「環境学習の視点」にかかわる児童の反応
<p style="text-align: center;">導 入</p>	<p>朝顔のお世話で頑張ってきたことや花が咲いてうれしかった気持ちを発表する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">みとおす</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展 開</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">たかめあう</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まどめる</p>	<p>あさがおのはなのたたきぞめをして、おもいでメダルをつくろう。</p> <p>本時の活動を知る。</p>  <p>花を使ってたたきぞめをする。</p>  <p>作品や「アサガオさんへの手紙」を友だちに紹介する。</p>  <p>「あさがおの花を広げるのはむずかしいなあ。」</p>  <p>「じょうずにできたぞ。きれいなメダルになるかな。」</p>  <p>「きれいな花を咲かせてくれてありがとう。」</p>  <p>「あさがおさん、ぼくたちのためにありがとう。」</p>
<p style="text-align: center;">終 末</p>	<p>エコマンからの手紙を聞く。</p>

## 第3学年 総合的な学習の時間「みかん山をたんけんしよう」

### 【環境学習の視点】

#### ①自然保護

身近なみかん山の様子を調べることで、自分たちの地域に関心を持たせ、自然に親しみ、大切にしようとする心情を養う。

#### ②基礎的・基本的な能力

自分が調べたり考えたりしたことをわかりやすくまとめ、相手に伝えることを考えた発表をすることができる。

学習過程	授業の流れと「環境学習の視点」にかかわる児童の反応			
<div style="text-align: center;"> <p>導入</p> <p>みとおす</p> <p>展開</p> <p>たかめあう</p> <p>まとめる</p> <p>終末</p> </div>	<p>みかん山探検の写真を見ながら、活動の思い出を発表する。</p>			
	<p>みかんのひみつをさぐろう。</p>			
	<p>調べてきたことを発表する。</p>		<p>「みかんの花は、おかしのような甘いにおいがありました。」</p>	
	<p>テーマを決める。</p>		<p>「おいしいみかんを作るために工夫していることを知りたい。」</p>	
	<p>地域でみかんづくりをされている方から話を聞く。</p>		<p>「わたしは、みかんの収穫のしかたを調べてみたいです。」</p>	
	<p>本時の学習活動のまとめをする。</p>	<p>「みなさんに何本かのみかんの木の管理を任せるので、お世話をしっかりお願いします。」</p>		

## 第6学年 総合的な学習の時間「ふるさと三玉の自慢をしよう」


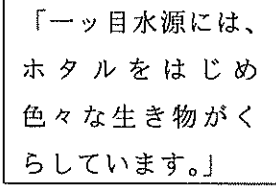


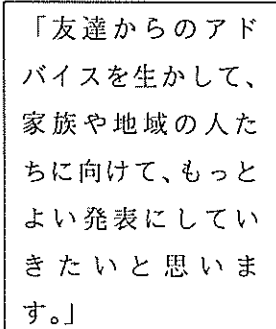
### 【環境学習の視点】

#### ①自然保護

私たちの住む三玉の校区に残る歴史、人物、自然のよさ等を知り、校区に自信と誇りを持ち、これから先の自分の生き方や考え方、行動にプラスになるよう心情を高める。

#### ②豊かな感受性

自分たちのテーマについて調べ発表し、感想を述べる。発表を聞き、感動したことや、感じたことを出し合いお互いに共有することができる力を養う。さらに、ふるさと三玉の素晴らしさを認識させる。

学習過程	授業の流れと「環境学習の視点」にかかわる児童の反応
<p style="text-align: center;"><b>導 入</b></p>	<p>前時までの学習の取り組みについて想起する。</p>
<p style="text-align: center;">展 開</p> <p style="text-align: center;">たかめあう</p>	<p>各班で作った新聞の発表を聞き感想を出し合おう。</p>
	<p>本時の授業の流れを確かめる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="456 943 788 1048" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>本時の授業の流れを確かめる。</p> </div> <div data-bbox="826 943 1102 1144" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1129 943 1442 1128" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>「私たちは不動岩について紹介します。『不動と権現』の話を知っていますか。」</p> </div> </div>
	<p>各班の発表を聞き、感想やよかった点などを出し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="456 1205 788 1368" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>各班の発表を聞き、感想やよかった点などを出し合う。</p> </div> <div data-bbox="826 1182 1102 1368" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1129 1182 1442 1406" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>「一ツ目水源には、ホタルをはじめ色々な生き物がくらしています。」</p> </div> </div>
<p>3つの班の発表について意見を出しあう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="456 1413 788 1637" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="826 1451 1102 1653" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1129 1458 1442 1653" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>「発表を聞いて、一つ一つのことがとてもくわしく分かりました。」</p> </div> </div>	
<p style="text-align: center;"><b>終 末</b></p>	<p>次時の発表で生かす部分を確認する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="456 1921 788 2024" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>次時の発表で生かす部分を確認する。</p> </div> <div data-bbox="826 1697 1102 2024" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1129 1697 1442 1928" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>「友達からのアドバイスを生かして、家族や地域の人たちに向けて、もっとよい発表にしていきたいと思います。」</p> </div> </div>

## (2) 豊かな心の醸成を図る取組

2年道徳 主題「動植物にもやさしい心で」  
資料「こうえんの見はりばん」(東京書籍)

環境学習の視点 ㊦自然保護 ㊧豊かな感受性

### 【授業の概要】

つばめを思うおじいさんの優しい心を通して、主人公も自らできる行動を考えていく。生活を振り返る場面で、ECOマンから三玉の子どもたちが動物や植物のためにがんばっている姿を具体的に紹介してもらい、実践意欲を高めていった。



【GTとして校長がECOマンに扮して登場】



【生活を振り返り自分にできることを紹介】

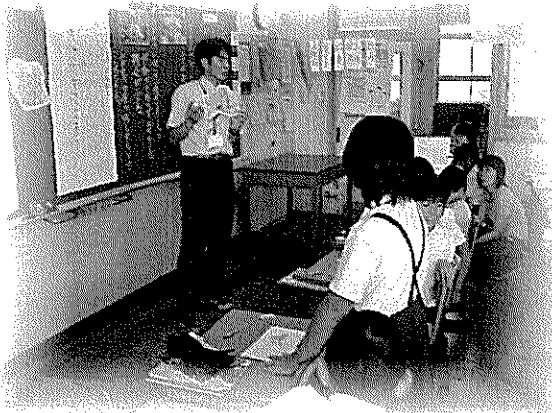
4年道徳 主題「かけがえのない水を大切に」  
資料「日本一おいしい水」(東京書籍)

環境学習の視点 ㊦生活環境 ㊧環境保全

### 【授業の概要】

主人公が、熊本の水のすばらしさを再発見し、その水の使い方について考えていく。地域にある一ツ目水源での体験や山鹿市の具体的なデータを元に、水のありがたさやふるさとのすばらしさを感じ、自分たちにできる具体的な行動を紹介した。

## (3) 各教科で環境への認識を育む実践



### 4年 国語

「ヤドカリとイソギンチャク」

段落間の結びつきを考えながらヤドカリとイソギンチャクの「共生」の関係を読み取った。また、他の生き物の関係についても図書の本などで調べ、分かりやすく新聞にまとめた。

### 5年 家庭科

「身の回りを整理・整とんしてみよう」

児童に家族の一人として、また地域の一員として、生活をよりよくする方法を考えた。また、4Rの観点から自らの生活を振り返った。



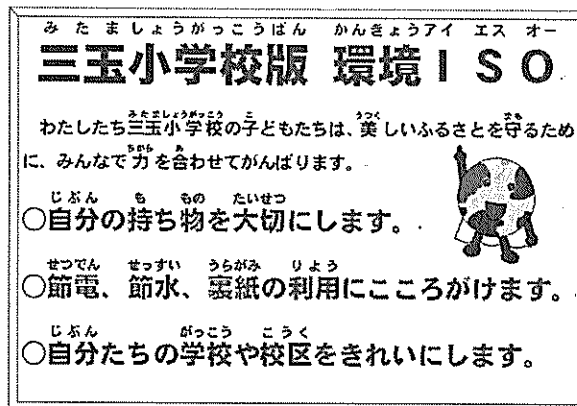
### 3 校内の日常活動内における環境にかかわる活動の充実

#### (1) 継続的な環境活動

##### ①三玉小学校版環境ISOの徹底

本校では、学校でできる環境にやさしい活動の目標をつくり、みんなで取り組んでいこうと「三玉小学校版環境ISO運動」に取り組んでいる。児童会が中心となってこれまでの取組を見直し、右図のような宣言を行い、実践化へとつなげている。この学校版環境ISOについては、教室及び校内に掲示し、意識化を図っている。

また、それぞれの宣言項目をより具体化するために、委員会活動と連携を取りながら取組を計画し、継続的に実践している。



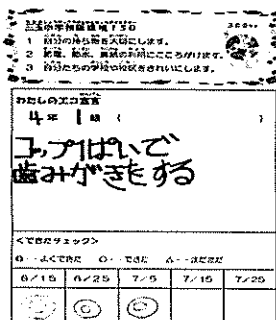
【校内に掲示した「三玉小学校版環境ISO」】

三玉小学校版環境ISO	具体的な実践内容
自分の持ち物を大切にします。	○落とし物0運動（毎週1回記名点検） ○くつ箱の点検
節電、節水、裏紙の利用にこころがけます。	○エコタイム（給食から掃除時間までの消灯） ○コップ1杯歯みがき運動 ○裏紙利用コーナーの設置
自分たちの学校や校区をきれいにします。	○無言掃除の奨励 ○ゴミ拾いタイム（給食後3分間ゴミ拾い） ○ゴミ拾い登校（毎週水曜日）

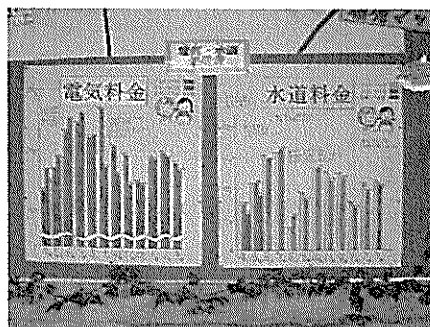
本校では、毎月5のつく日を『いい5の日（エコの日）』と設定し、児童一人一人が、宣言内容を基に自分の生活を振り返る日としている。「エコチェックカード」に自己評価し、できた項目にはシールを貼るようにした。

さらに、学校全体の電気代・水道代の推移については、児童に分かりやすく示したグラフの掲示も行い、その結果に対する分析やアドバイスを書きこむようにした。

このように自分たちの取組の成果や課題が目に見えるような工夫を行ったことで、児童の実践意欲の向上につながっている。



【エコチェックカード】



【電気代・水道代の推移グラフ】



【毎週水曜日のゴミ拾い登校】

## ②「わたしのエコ宣言」の取組

本校児童の環境に対する意識を高め、日常化していくことを目的として「わたしのエコ宣言」に取り組んだ。環境に関する行動目標をリストアップし、高学年用と低学年用に分けてアンケート用紙にまとめた。これらの行動目標一つ一つについて日頃の自分の行動を反省し、チェックさせた。その中で特にこれに取り組むというものを一つ選び、準備した用紙に記入させ、中央廊下に設置した『環境の木』に掲示している。

### 「わたしのエコせん言」アンケート（3～6年用） 名前（ ）

よくできている◎ まあまあできている○ あまりできていない△	
①	コップは使いの水で飲みかきまわしている。
②	手をあらう時は、サを出しっぱなしにしない。
③	人がいない 部屋やむたな電気は、消して閉めるようにしている。
④	さん（びつ）やけしコン、シートを、まいてまて使い切っている。
⑤	食事は、のこさず食べている。
⑥	一度使った紙は、すぐに捨てずに再利用している。
⑦	ゴミのポイ捨てはしていない。

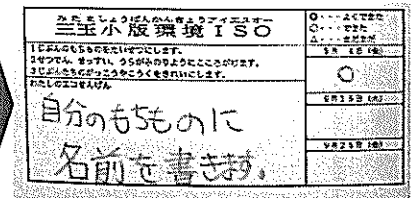
【環境に関する行動アンケート】



【「わたしのエコ宣言」を決める】



【「環境の木」へ全児童の宣言を掲示する】



【毎月「エコの日」に振り返る】

## ③計画的な栽培・飼育活動の取組

省エネルギー型の環境教育実践事例が多い中で、本校では、自分たちの手で作り出し、育てる環境教育を大切にしている。動植物を育てる中から、自然のすばらしさや力強さ、生命の尊さなどを肌で感じ取り、ひいてはそのことが地球を長生きさせることにつながるという考え方に立って、様々な栽培・飼育活動に取り組んでいる。



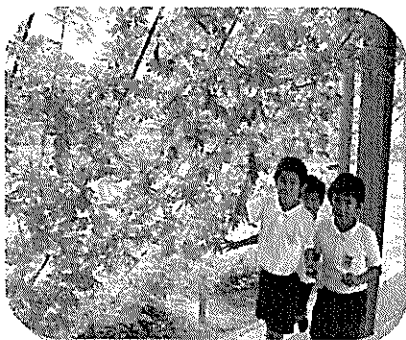
【一人一鉢による花の栽培】



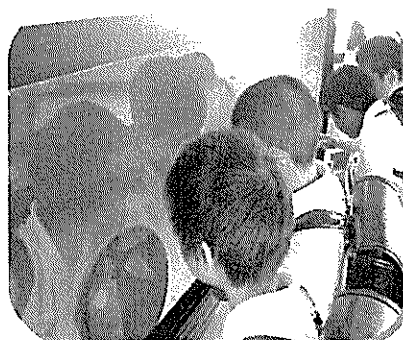
【二人プランターの栽培】



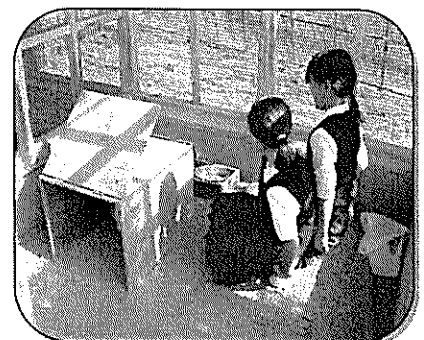
【学級園での栽培活動】



【グリーンカーテンづくり】



【地域の魚の飼育・観察】



【ウサギの飼育活動】

## (2) 自主的活動の充実

### ①委員会活動による環境活動の実施

児童がより主体的に身近な環境へと働きかけていくために、児童会を中心とした活動を見直し、活性化してきた。委員会を単位として、特色を生かした活動を計画し、実践している。委員会ごとの主な実践内容には、以下のようなものがある。

主な委員会	環境にかかわる活動
環境美化委員会	環境チェック 地域のゴミ拾い ゴミ拾いタイムの呼びかけ
生活・安全委員会	くつならべ調べ、あいさつ運動
放送委員会	エコエコタイムの呼びかけ ※給食からそうじまでの消灯
保健委員会	環境ホルダーづくり
栽培委員会	学校園やプランターの花の世話
運営委員会	エコ集会の計画と運営



【環境美化委員会による地域のゴミ拾い】



【栽培委員会による花いっぱい活動】

また、毎週木曜日の朝の「おはようタイム」の時間をエコ活動と設定し、各学級で活動を計画し、校内のゴミ拾いや草取り、ネイチャーゲーム等、環境にかかわる活動を行っている。

### ②エコ集会の実施

それぞれの学年で発達段階に応じた環境学習や日常的な活動が実践されているが、その取組を紹介する場として、毎月1回火曜日の「おはようタイム」を利用してエコ集会を行っている。

体験活動を通して感じたことや考えたこと、また全校に呼びかけたいことなど、各学年で趣向を凝らした内容が発表されている。エコ集会での発表を通して、児童の表現力の向上にもつながっている。

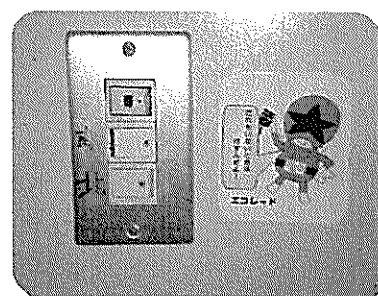
2年生で紹介された「MOTTAINAI」という言葉は、全校児童の合い言葉となっている。また、4年生の発表で登場した「三玉戦隊エコレンジャー」は、みんなに親しまれるキャラクターとなり、校内の至る所に掲示され、環境に配慮した生活の意識化に活用されている。



【2年発表「小さなエコマン物語」】



【4年発表「三玉戦隊エコレンジャー」】



【エコレンジャーによる節電の呼びかけ】

## 4 学校と家庭・地域が連携を図った環境教育の推進

### (1) 家庭・地域と連携した取組

#### ①家庭版環境ISOへの取組

家庭と連携を図った環境教育を進めるために、「家庭版環境ISO」の取組を行っている。学期に1回、各家庭で「資源の再利用」「生活環境」「環境保全」の3つの視点から行動目標を設定してもらい、実践化を図ってきた。行動目標については、具体的な事例を提示し、その中から選択して取り組んでいただいている。

#### 家庭版環境ISO

環境にやさしい行動も、目標ごとに3つに分けました。各目標ごとに、家庭でご相談されて、できる範囲で行いたい項目を一つずつ選んで、実行してください。

##### 目標1

資源を有効に使い、ごみを減らそう

行動目標 紙コップや紙皿は洗って再利用しよう。

##### 目標2

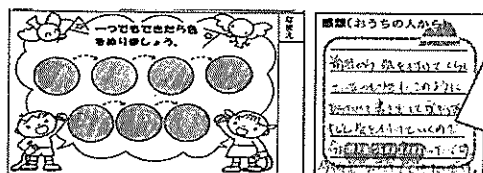
エネルギー・水のムダ使いをなくそう！

行動目標 節電や節水のポスターを貼ろう。

##### 目標3

環境にやさしいまちづくりをしよう

行動目標 身近なところの緑を大切にしよう。



【「家庭版環境ISO」実践シート】

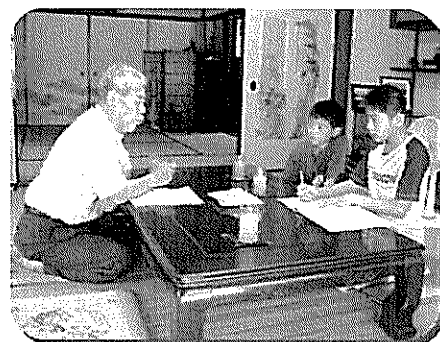
#### 【保護者の感想から】

- 家庭内に「もったいない」という言葉がたくさん出るようになったと思います。
- 運動会のお弁当でも、紙皿や割りばしを使わず、洗ってまた使える物を使いました。連休中、出かけた先で大量のゴミ、たばこの吸いがらを見て、みんなでそのことについて話しました。
- 家庭で協力してエコに取り組みました。よく学校の帰りにゴミを拾ってきます。
- 節水や節電については、心がけていないとなかなか出来ませんね。これからもがんばりたいと思います。

#### ②環境レポーター活動の実施

校区について知り、地域の方々の考えや実践から学ぶ取組として、環境レポーターによる聞き取り活動を行っている。毎月1回、地区の代表となっている環境レポーターの児童が区長さん宅を訪問し、自然のすばらしさや地域への思い、またそれを守るために実践されていることなどについて話を聞いている。

聞き取った内容については、校内に掲示したり集会活動で紹介したりしている。



【環境レポーターによる聞き取り】

#### ③資源ゴミ分別回収への参加

校区では、毎月2回資源ゴミの分別回収が行われている。地域の方々の活動に学び、地域の一員としての自覚を培うために、高学年の児童のみであるが、地域の方と共に分別回収活動に参加している。持ち込まれるゴミを意欲的に受け取り、分別に汗を流す姿が見られる。



【資源ゴミ分別回収へ参加した児童の様子】

## (2) 啓発活動の取組

### ①「エコフェスティバル IN 三玉」の実践

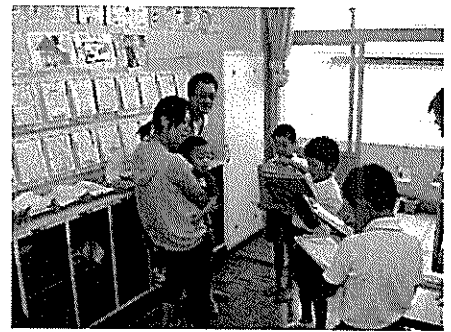
学校が発信点となり、校区全体で身の回りの環境に対する認識を深め、一人一人が三玉の環境を考える目的で、7月に「エコフェスティバル IN 三玉」を開催した。

当日は、全学級において保護者参加型の環境にかかわる授業を公開した。また、エコ集会を実施し、日頃学校で取り組んでいる様子についても発表した。さらに学校で、児童、保護者、地域の代表者によるパネルディスカッションを実施した。

この実践については、熊本日日新聞にも掲載され、県内に広く紹介された。



【パネルディスカッションの様子】



【全学級で行われた環境学習】



【7/9に熊本日日新聞に掲載された内容】

### ②「エコeco通信」の発行

環境への取組を広く地域へ発信し、地域をあげて「ふるさと三玉」を守り続けていくことを啓発するために、毎月1回広報紙「エコeco通信」を発行している。校内で行っている環境にかかわる学習や活動を紹介するだけでなく、昨今話題となっている地球温暖化やゴミの問題等について掲載したり、環境にやさしいエコライフの在り方について紹介したりしている。さらに、家庭版環境ISOのシートに書かれた感想や各家庭で実践されている「我が家のエコ自慢」も載せている。

校区全体に配布しており、最近では、「エコeco通信を読み、我が家でも出来ることを考えてみるようになった」といった意見を聞けるようになってきている。



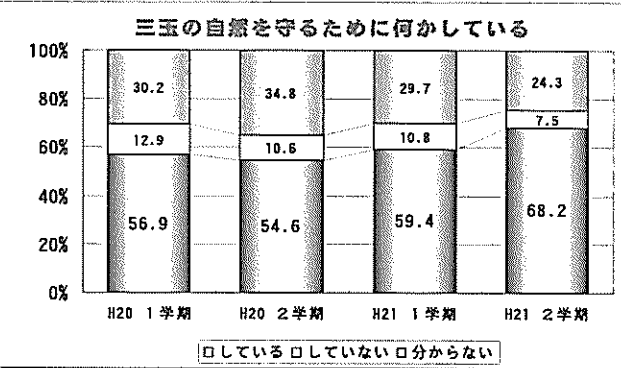
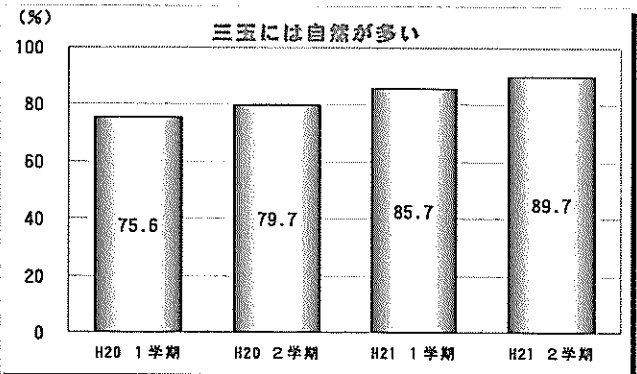
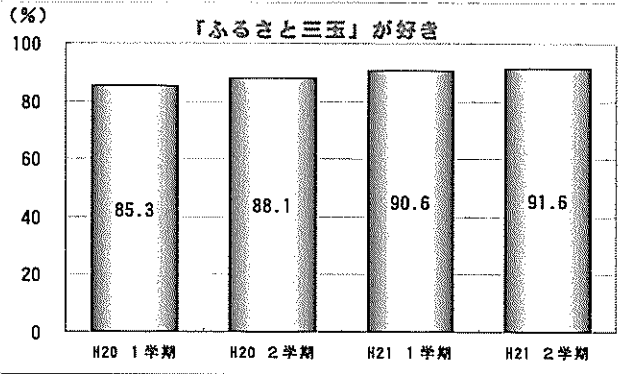
【ECO通信による環境への呼びかけ】

### III 研究のまとめ

#### 1 実態調査から（一部掲載）

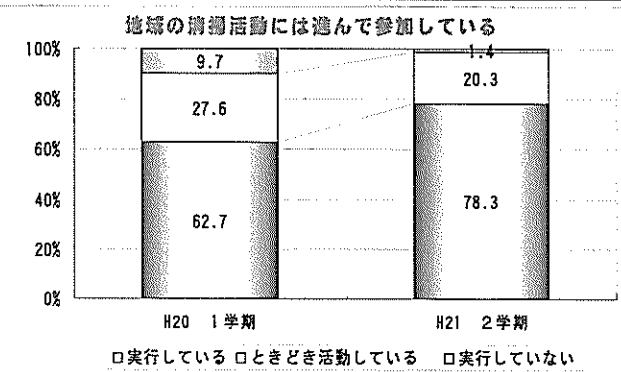
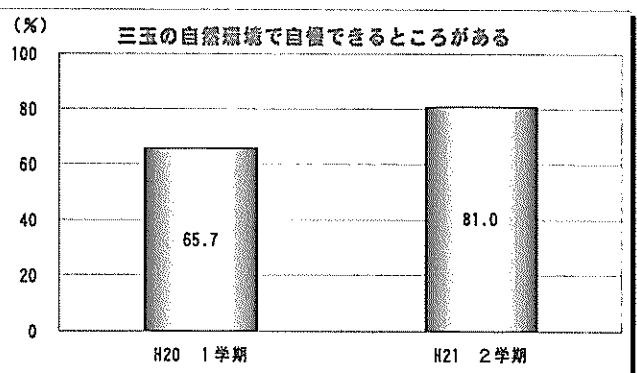
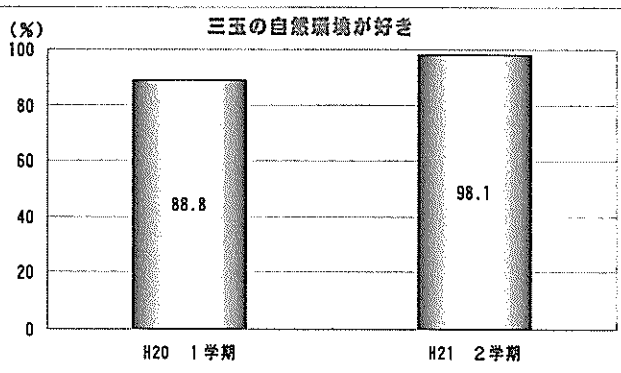
調査時期：H20, 6（1回目） H20, 12（2回目） H21, 6（3回目） H21, 9（4回目）  
 調査対象：三玉小全校児童（N=①225人 ②227人 ③212人 ④214人）  
 三玉小保護者（N=①134人 ④105人）※保護者は2回  
 調査方法：質問紙回収（ただし、6月の1年生アンケートは聞き取り）

##### （1）児童に対する実態調査



**【考察】**  
 全体的に「ふるさと三玉」の環境に関心が高まり、「好き」と答える児童が増えてきていることがうかがえる。校区の自然を守るために行動していると回答した児童が7割近くに増え、行動力も徐々にではあるが身につけてきていることが分かる。

##### （2）保護者に対する実態調査



**【考察】**  
 啓発活動を続けてきたことで、保護者の地域の自然環境に対する関心が高まってきたことがデータから見られる。また、地域をあげて環境教育に取り組んできたことで、保護者の方も地域の清掃活動により積極的に参加されるようになった。

## 2 研究の成果

### (1)「環境学習の視点を明確にした系統的・横断的な実践」の成果として

- 生活科・総合的な学習の時間を基本軸とした環境学習プログラムを構築したことで、これまで、その時間のみで止まっていた考えや行動を他の教科や学習活動へ広げることが出来るようになった。指導者側も、それぞれの学習のつながりを強く意識できるようになった。
- 「環境学習の視点」を考えながら授業づくりを行ったことで、児童の身近な環境に対する思考を焦点化することができた。また、「みたま学習」という独自の問題解決的な学習で授業を展開したことで、児童、指導者双方が学習の流れを理解して活動に取り組むことが出来るようになり、徐々にではあるが児童の表現力の向上が見られるようになった。
- 地域の素材や人材を効果的に活用した環境学習を計画・実践したことで、これまで以上に児童も教師も地域を身近に感じる事ができた。話題になっている環境問題について、自分たちの生活と結び付けて考えられるようになった。

### (2)「校内の日常活動内における環境にかかわる活動」の成果として

- 三玉小学校版環境ISOの宣言を中心に、自ら目標をもって環境活動に取り組んだことにより、主体的に環境にかかわろうとする児童が増えてきた。例えば、休日中も学校を訪れ花の水かけや草取りを自主的に行う子が見られるようになった。また、節電や節水等に心がける様子も見られ、その成果は月別の使用量にも表れている。
- 環境にかかわる活動を通して、児童会活動が活発化してきた。委員会活動では、これまで行われてきた活動に併せて、委員会ごとに創意工夫を加えた取組を検討し、実践している。

### (3)「学校と家庭・地域が連携を図った環境教育の推進」の成果として

- 三玉小校区環境教育推進協議会を立ち上げたことで、学校における環境活動に対して、地域の実態に応じたアドバイスをいただいている。環境レポーター活動やゴミ分別収集への参加、夏季休業中の地域での環境活動を通して、地域が一体となって三玉の子どもたちを育てようという機運の高まりが感じられるようになった。
- 学校における環境教育の取組を発信してきたことで、保護者の方々も「ふるさと三玉」のよさを再確認され、地域での環境保全活動にも積極的に参加されている。また、環境にやさしい活動に取り組まれる家庭も増えてきた。

## 3 今後の課題

- 環境学習プログラムに関しては、その実践の成果と課題を明確にしなが、より実態に即した計画へと修正を加えていきたい。
- 環境にかかわる日常活動について、学級及び学校全体を通じて様々な取組を実践してきたが、今後取組の成果を検証しながら精選していきたい。
- 三玉小校区環境教育推進協議会の活動をより地域主体の活動に移行し、地域をあげて「ふるさと三玉」の環境を守る組織へとつなげていきたい。

## おわりに

環境教育研究推進校としての2年間の取組は、学校と家庭、地域との結びつきを強めています。環境について理解し、環境から学び、環境のために行動する児童の姿が、本校の教育活動に対する家庭や地域の理解を深め、支援の輪を広めていると感じます。

環境学習では、身近な地域教材を掘り起こして、つなげた環境プログラムを柱に体験活動と結びついた系統的・横断的な授業づくりを行ってきました。この取組では、地域で汗する教師の姿が、学校への信頼感と教師力を高めています。研究授業では、学習規律の徹底のための方策についての検討はもとより、共通実践に向けた指導方法の工夫改善について論議が行われました。

日常活動では、発達段階に応じた環境のための活動について実践を積み重ねてきました。学校版と家庭版の環境ISOにより日常生活を点検し改善するとともに、土作りからの栽培活動等に取り組み、命を見つめ、環境を作る活動を行っています。

家庭・地域との連携では、三玉小校区環境教育推進協議会活動とPTA活動を土台に体験を通して学ぶ場ができ、児童、教職員、保護者、地域の方々が共に汗する機会が設けられました。学校と家庭、地域のそれぞれが、情報を発信し連携しあえるようになってきました。

この2年間の取り組みで、環境教育の深まりと広がりが徐々に顕れてきているように思います。また、児童の心が養われ、思考力・判断力・表現力が育成され、主体的に学習に取り組む態度も高まってきているように思います。しかし、研究はまだ緒についたばかりで成果以上に課題があるのも実情です。どうか、今後の研究の充実・深化を図るためにも、皆様の忌憚のないご指導・ご助言をお願い申し上げます。

平成21年11月25日

山鹿市立三玉小学校 教頭 中原 博 昭

### 【参考文献】

- 熊本県「熊本環境基本指針」「熊本県環境基本計画」
- 熊本県「学校教育における環境教育ガイドライン」
- 国立教育施策研究所 教育課程研究センター「環境教育指導資料」
- 文部科学省「小学校学習指導要領」
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」
- 日本環境教育フォーラム「日本型環境教育の提案」
- 日本環境教育フォーラム「日本型環境教育の知恵」
- 美里町立砥用小学校「研究紀要」
- 岩間美代子編著「校庭からはじまる環境教育」

### 【研究同人】

北原 光弘	中原 博昭	永尾 孝	井上 直子	河島 由美子
小川 眞智子	清田 和恵	小柳 正忠	梶原 圭一	松本 千昌
古川 裕子	青木 孝憲	柳邊 桂三	児島 明宏	西村 祐子
迫本 恵子	中池 充	富士木 絹香	川口 早苗	中川 琴子
前田 マサヨ	古家 仁	三浦 成紘	(H21, 6退職)	

<平成20年度>

大林 千代喜	上野 紀子	南條 佳奈
--------	-------	-------